

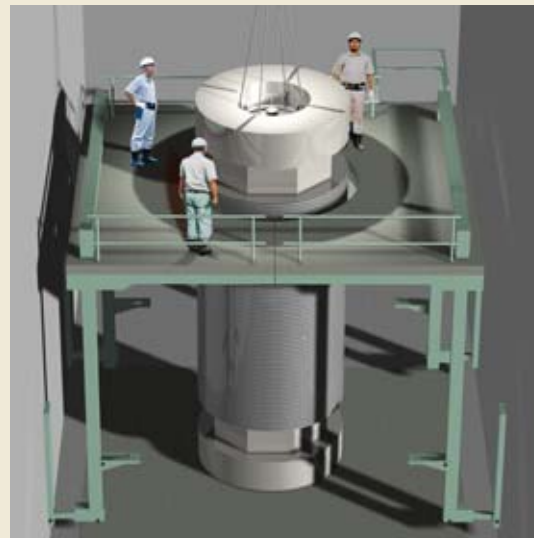
廃棄体が到着後、地上施設では何が行われるのですか？

ガラス固化体のオーバーパックへの封入や地層処分低レベル放射性廃棄物の廃棄体パッケージ製作などを行います。作業はすでに実績のある技術を応用し、遠隔操作で行います。

廃棄体の受入および密封性などの検査の後、高レベル放射性廃棄物の場合は、ガラス固化体をオーバーパックに封入し、地層処分低レベル放射性廃棄物の場合は、廃棄体パッケージ製作などを行い、必要な検査を行います。これらの作業は、放射線管理の観点から十分な遮へいを施した区域内で遠隔操作により行います。周辺環境や作業従事者に対する放射線の影響は、基準以下に厳しく制限します。施設には廃棄体の転倒・落下や地震・火災など、万一の事故をも想定した安全対策を講じます。

高レベル放射性廃棄物の例

① 受入検査



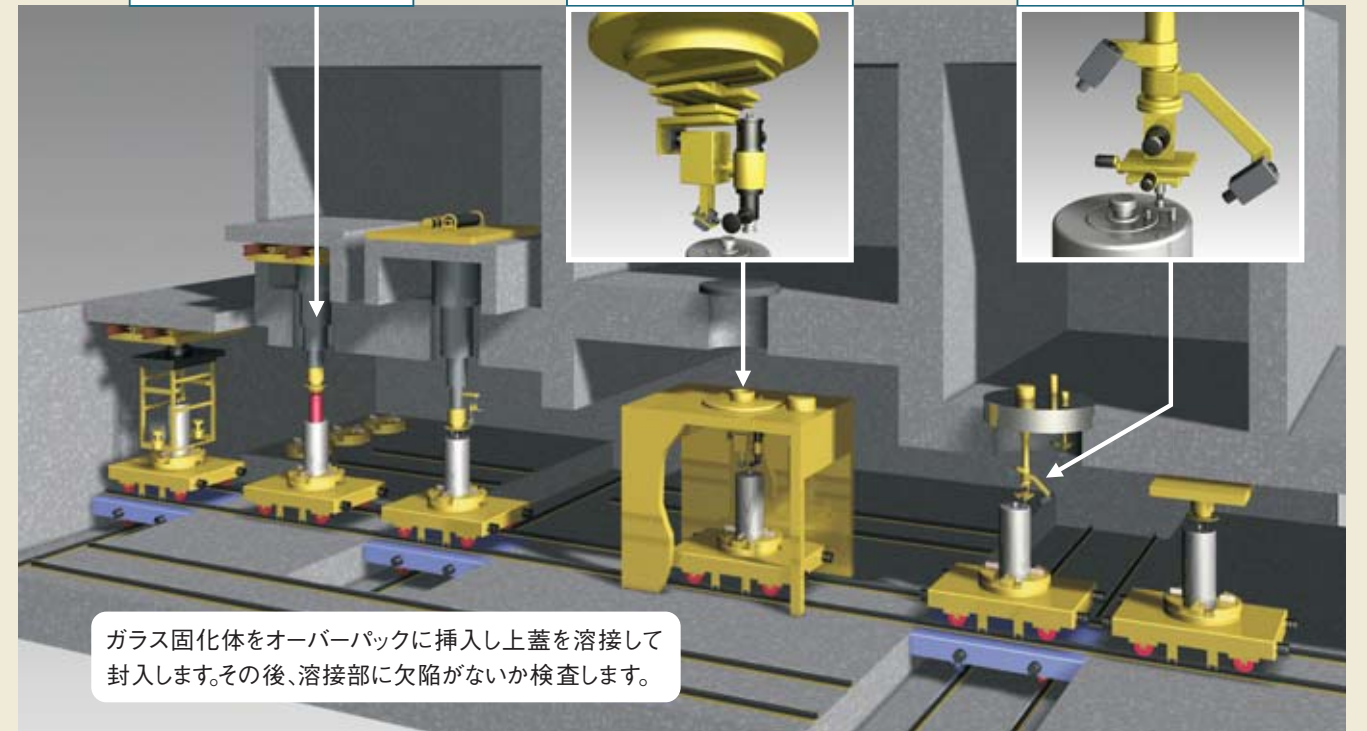
高レベル放射性廃棄物受入・封入・検査施設で、輸送容器を検査します。

② ガラス固化体
取り出し・検査



輸送容器からガラス固化体を取り出し、検査します。

③ ガラス固化体
挿入



ガラス固化体をオーバーパックに挿入し上蓋を溶接して封入します。その後、溶接部に欠陥がないか検査します。

④ オーバーパック
上蓋溶接

⑤ 溶接部検査



地下施設への搬送

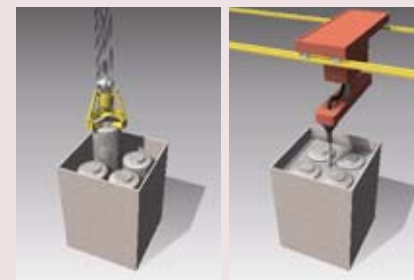
地層処分低レベル放射性廃棄物の例

受入検査、輸送容器からの取り出し・検査後、廃棄体パッケージ製作などを行い、その後、所定の検査を経て地下施設へと搬送します。

廃棄体パッケージの製作

廃棄体を予め用意された金属製などの箱に収納し、充填材を充填し、封入します。

廃棄体がキャニスタの場合



廃棄体がドラム缶の場合

